

第 1 学年道徳指導案

平成 17 年 10 月 28 日（金）1 校時

1 年 1 組（男 13 名 女 13 名 計 26 名）

指導者 川田 利知子

- 1 主題名 くじけないでがんばろう （1－（2）勤勉・努力）
- 2 資料名 はたらけせっせ （出典 学研）
- 3 主題設定の理由

（1）価値について

第 1 学年及び第 2 学年の内容項目 1－（2）は、「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。」となっている。勤勉に、くじけず努力し自分を向上させる児童を育てようとする内容項目である。第 3 学年及び第 4 学年では 1－（3）「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。」に発展し、第 5 学年及び第 6 学年では 1－（2）「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」に統合している。

人が自立していくためには、自分がやらなければならないことをしっかりできることが大切である。そして何事にも粘り強く取り組み、努力し続けることによって、自己の在り方や生き方が自覚されてくる。

この時期の児童にとって、やらなければならないこととは、勉強や家での手伝い、学級での仕事であるが、少し怠けても周囲の大人に支援してもらっていることが多い現状である。また、今の生活は科学技術の進歩によって、待ったり我慢したりする体験が少なくなっている。しかし、人がよりよく生きていくためには、忍耐や困難に打ち勝つ強い意志を持つ必要がある。そこで、責任を果たし成就感を持って生きていくために、自分がやらなければならないことはくじけずにやり通そうとする気持ちを育てていきたい。

（2）児童について

本学級の児童は、入学してまもなく給食当番や清掃当番をすることによって、責任をもって自分の役目を果たさなければならないことがわかっている。また、運動会では「最後までがんばること」のすばらしさを感じた児童もいた。体育の水遊びやなわとびでは目標に向かってがんばることの大切さを、生活科のあさがおの世話では忘れずに水遣りをする必要性を、体験を通して理解している。児童の日常生活を見ていると、学習や活動に意欲的に取り組み、努力しようとすることはできても、困難に直面するとすぐにあきらめて途中で投げ出したり、周りの友達や担任に何とかしてもらおうとしたりして最後までやり通すことのできない児童が多い。係り活動では、仕事を忘れて怠けたりして学級のみんなを待たせたり不便な思いをさせたりしてしまう児童もいる。

そこで、このような児童に、自分のなすべき仕事や勉強などやらなければならないことは、くじけずにやり通そうとする気持ちを育てたい。

（2）資料について

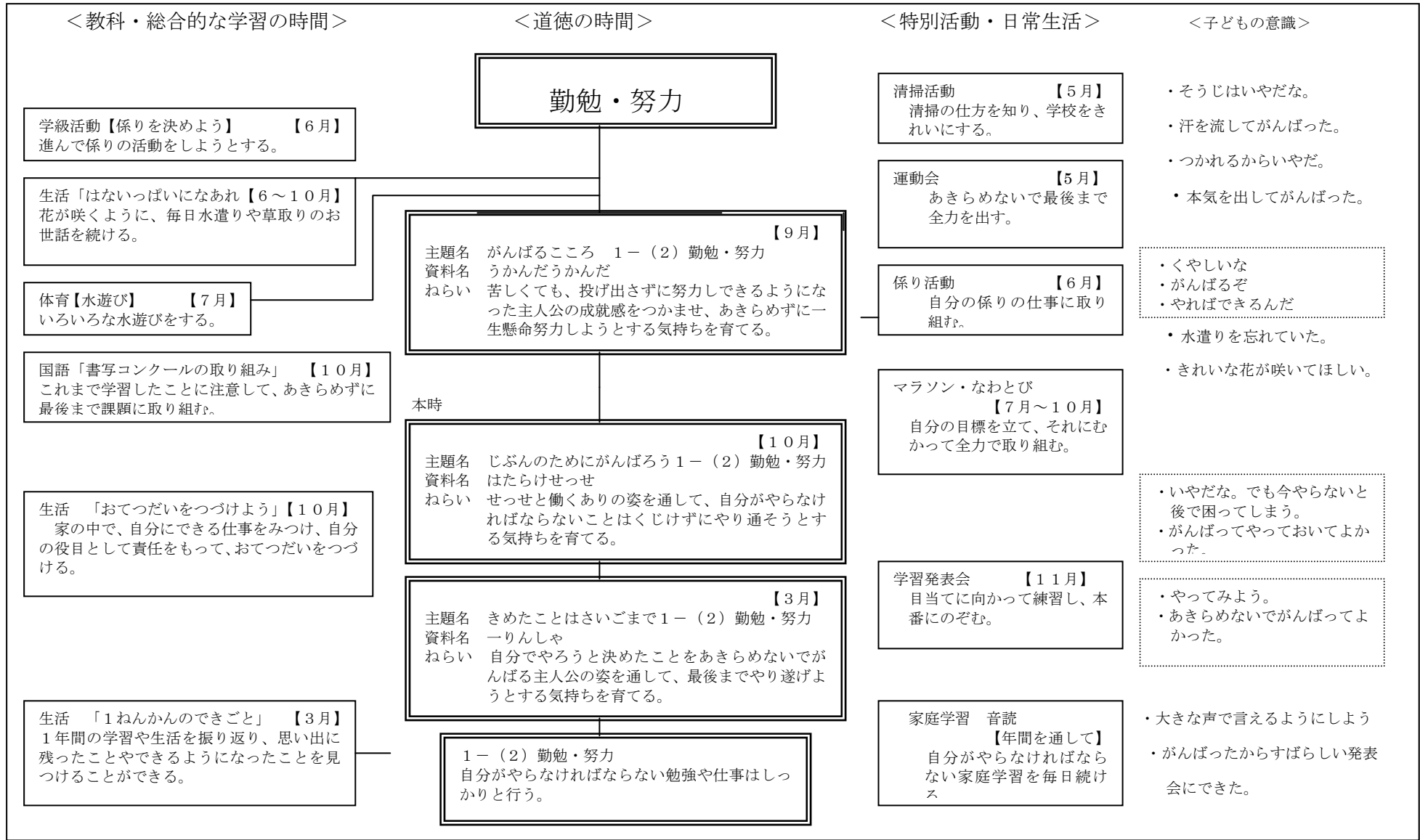
本資料は、イソップ童話「ありときりぎりす」を再構成したものである。夏の暑いときにせっせと働くありたちと、楽しく歌って遊んでいるきりぎりすを対比させながら、冬に備えて働き続けるありたちの姿をえがいている。きりぎりすをうらやましいと思いきりぎりすになりながらも、せっせと働くありたちの姿を通して、やらなければならないことはくじけずにやり通そうとする気持ちを育てていくのに適した資料であると考えられる。

（3）授業の構想について

ねらいとする価値に迫るために、生活科の体験活動を含めた児童一人一人の多様な体験を想起させ、せっせと働いてやらなければならないことをくじけずやり通すありたちの姿に自分を重ねて考えさせ、やらなければならないことの意味をしっかりとつかませたい。

「深める」段階の話し合いでは、生活科の「おてつだいをつづけよう」や体育の学習のめあてをもって取り組んだなわとびで、嫌になったことやあきらめてしまったことを思い起こさせありたちがくじけそうになった気持ちに共感させたい。その上で、ありたちがせっせと働いた後の充実感、安堵感を考えさせ、くじけずにやり通そうとする大切さに気づかせたい。

4 全教育活動における本時の位置付け



5 本時の指導

(1) ねらい せっせと働くありたちの姿を通して働くことの大切さをとらえ、自分がやらなければならないことはくじけずにやり通そうとする気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点や支援
気 づ く 7分	<p>1 毎日している自分の仕事を思い出す。</p> <p>○ みんなが毎日しなければならぬ仕事は何ですか。</p> <p>2 資料「はたらけせっせ」を読み、学習のねらいをもつ。</p> <p>○ 「はたらけせっせ」を読んで思ったことを発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 勉強、掃除、係りの仕事 給食当番 <ul style="list-style-type: none"> ありが一生懸命働いてえらいと思う。 きりぎりすも働けばいいと思う。 ありが安心して冬が越せてよかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分がやらなければならない学習や仕事を思い出し、ねらいとする価値への方向付けをする。 学習課題は、冬に安心してくらすありたちへの感想を元に教師が中心になって設定する。
	<p>ふゆになって、ありたちはじぶんたちのへやでどんなことをかんがえていたでしょう。</p>		
深 め る	<p>3 「ありたち」の気持ちについて考え、話し合う。</p> <p>○ きりぎりすに「ぼくと歌を歌わないか。楽しいよ。」と言われた時、ありたちはどんな気持ちになりましたか。</p> <p>○ 秋になり、またきりぎりすに「いっしょに歌って遊ぼう。」と言われたありたちはどんな気持ちでしょう。</p> <p>○ 1ぴきのありに「食べ物がたくさんある今のうちに、いっぱい運んでおこう。」と言われたとき他のありたちはど</p>	<ul style="list-style-type: none"> 暑いから休みたい。 ちょっとだけ歌おうかな。 きりぎりすさんも働いたら。 忙しいから歌えない。 そんな暇はないよ。 暑いけど働かなくちゃ。 <ul style="list-style-type: none"> やっぱり働かなくちゃ。 今のうちに食べ物を運んでおこななくちゃ。 どうしようかな ちょっとぐらい遊ぼうかなあ。 きりぎりすさんといっしょに遊びたいな。 <ul style="list-style-type: none"> 遊びたいけど、みんながんばっているから働こう。 もうすぐ冬だから、やっぱり働かなくちゃ。 そうだ、がんばろう。 	<ul style="list-style-type: none"> きりぎりすの誘惑にまけないで、暑くてもがんばって働いているありたちの気持ちをとらえさせる 「そうだな。ちょっと、あそぼうか。」と言ったありたちの言葉から、生活科のお手伝いやなわとびの体験活動で、嫌になったりあきらめそうになったりしたことを想起させ、くじけそうになったありたちの気持ちに共感させたい。 1ぴきのありの言葉で気を取り直し、またせっせと働いたありたちの気持ちを役割演技で発表させることにより、く

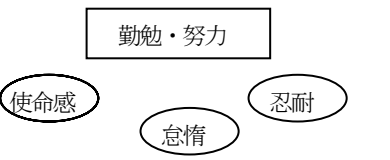
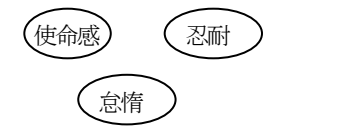
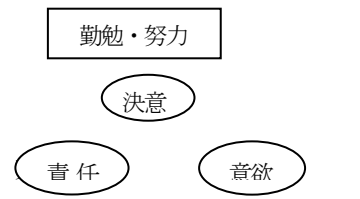
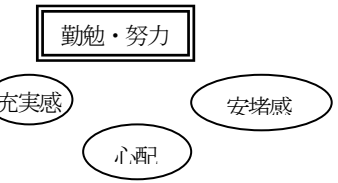
30分	<p>う思いましたか。</p> <p>◎冬になって、ありたちは自分たちの部屋でどんなことを考えていたでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までがんばったんだから、ここでくじけてはいけない。 ・ きりぎりすさんは今ごろどうしているかなあ。 ・ きりぎりすさんも働いていればよかったのに。 ・ 春までゆっくりすごそう。 ・ 食べ物がいっぱいあって安心だ。 ・ 夏から一生懸命働いてよかった。 	<p>くじけずにやり通そうとしたありたちの気持ちに共感させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冷たい冬がきてもゆっくり過ごすありたちのすがたを把握した後、ありたちの気持ちを考えてふきだしに書き、充実感や安堵感がくじけずにやり通した結果得られた事に気づかせたい。
見 つ め る 5分	<p>4 がんばって続けていることを発表する。</p> <p>○たいへんだなあと思っても、がんばって続けていることにはどんなことがありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ なわとびをがんばっている。 ・ 音読と宿題をがんばっている。 ・ 水遣りをがんばってやったのであさがおがきれいに咲いて種取りができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで自分がくじけずにやり通してきたことを再確認することで、自己肯定感をもたせたい。
ま と め る 3分	<p>5 自分のがんばっている姿を見る。</p> <p>○みんなががんばっている姿を写真でみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ うれしい。 ・ これからもがんばろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人が写真を見ることにより児童の今後への意欲を高めさせたい。

6 板書計画

7 資料分析

(2) ねらい せっせと働くありたちの姿を通して働くことの大切さをとらえ、自分がやらなければならないことはくじけずにやり通そうとする気持ちを育てる。

(1) 資料名 はたらけせっせ (出典 学研)

主な場面	夏の暑い日、ありたちがせっせと食べ物を巣に運んでいるとき、きりぎりすに「いっしょにうたおう。」と誘われる場面	秋がきて、ありたちが働いているとまたきりぎりすに「いっしょに歌って遊ぼう。」と誘われる場面	きりぎりすの誘いに、「食べ物がたくさんある今のうちにいっぱい運んでおこう。」と言って、またせっせと働く場面	つめたい冬がきて、ゆっくり過ごしているありたちが、きりぎりすを考える場面
把握すべき状況	<ul style="list-style-type: none"> ・なつのあついひ ・「ぼくとうたをうたわないか。たのしいよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いまはたべものがたくさんあるから、あんしんじゃないか。うたってあそぼうよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たべものがたくさんあるいまのうちに、いっぱいはこんでおこうよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・つめたいふゆがきました。 ・どこにもたべものはありません。 ・ありたちはこまりません。
主人公の心の動き	 <ul style="list-style-type: none"> ・せっせとたべものをはこんでいる。 ・「いまわたしたちは、いそがしいのです。」 	 <ul style="list-style-type: none"> ・「そうだな、ちょっとあそぼうか。」 	 <ul style="list-style-type: none"> ・またせっせとはたらきました。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・「あのきりぎりすさん、いまごろどうしているかなあ。」
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・暑いけど働かなくちゃ。 ・そんな暇はないよ。 ・忙しいから歌えないよ。 ・きりぎりすさんも、働いた方がいいよ。 ・ちょっとだけ、歌おうかな。 ・暑いから、休みたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり働かなくちゃいけない。 ・今のうちに食べ物を運んでおかなくちゃ。 ・どうしようかなあ。 ・ちょっとぐらいならいいかなあ。 ・楽しそうだから、きりぎりすさんといっしょに遊びたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もうすぐ冬だから、やっぱり働かなくちゃ。 ・今までがんばったんだから、ここでくじけてはいけない。 ・そうだ、がんばろう。 ・遊びたいけど、みんなががんばっているから働こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏から一生懸命働いてよかった。 ・食べ物がいっぱいあって安心だ。 ・これで春までゆっくり過ごそう。 ・きりぎりすさんも働いていればよかったのに。 ・きりぎりすさんは今ごろどうしているかなあ。
発問	○きりぎりすに「ぼくとうたをうたわないか。たのしいよ。」と言われた時、ありたちはどんな気持ちになりましたか。	○秋になり、またきりぎりすに「いっしょに歌って遊ぼう。」と言われたありたちはどんな気持ちでしょう。	○1びきのありに「食べ物がたくさんある今のうちに、いっぱい運んでおこうよ。」と言われたとき、他のありたちはどう思いましたか。	◎冬になって、ありたちは自分たちの部屋でどんなことを考えていたでしょう。